



言葉で伝え合おう

令和4年5月1日
静岡市立南中学校
学校便り5月号

「南海トラフ地震臨時情報と南中」

校長 長尾 剛 史

4月21日の授業参観にご参会いただきありがとうございました。保護者の皆様のご協力もあり、当日は窓全開で授業を参観していただくことができました。

さて、生徒たちは昨年度から、南海トラフ地震に備えた防災学習に取り組み、地震防災の基礎を学び始めています。その学習内容は、「南海トラフ地震とその被害想定」、「中島中生徒会との防災交流」、「東日本大震災に被災した方のお話を聴く会」などです。また、南中グループ小中一貫教育の一環として学習を進めていることから、各小学校においても「災害図上訓練D I G」や「防災まち歩き」などに取り組んでいます。そして今年度は、座学から訓練要素の強い学習に取り組んでいきます。そして11月12日(土)に、「南中グループ 引き渡し訓練」を計画しています。私たちは、この訓練の必要性を次のように考えています。

「東海地震」から、「南海トラフ地震」に呼び名が変更され久しくなりますが、令和元年5月に「南海トラフ地震臨時情報」の運用が開始されています。この臨時情報は、南中学区にとって、とても重大な意味をもつ情報と言えます。南海トラフ地震は、震源地となる「東海」「東南海」「南海」の三つのエリアが、連動して起きる巨大地震です。過去の巨大地震の歴史において、東海エリアで大地震が発生した数時間後、または数年後、南海、東南海エリアで巨大地震が発生した例が見られています。いわゆる「半割れ」と呼ばれるケースです。この「南海トラフ地震臨時情報」は、南海エリア、東南海エリアで先行して地震が発生し、東海エリアでの地震に連動する可能性があるとき報じられます。もちろん、東海地区が先行する場合も考えられます。また、臨時情報には警戒度に応じて「巨大地震注意」と「巨大地震警戒」の2種類があります。こうした見直しが、なかなか社会に浸透しなかった理由に、新型コロナウイルスの感染拡大の時期と重なったことがあります。私たちも臨時情報の存在を知ったとき「このタイミングか?!」と困惑したものです。

では南海トラフ臨時情報「巨大地震警戒」が発出されたとき、南中はどのような対応をするかお伝えします。学区には津波浸水想定地域があります。この理由から、ただちに教育活動を中断し、生徒は「保護者への引き渡し」や「集団下校」によって下校します。ただし「津波警報」が報じられている場合は、解除されるまで生徒は「留め置き」となります。このとき、津波の影響がない、学校より北側の地域に住む生徒については、「保護者引き渡し」によって下校することも考えられます。この状況を想像すると、判断は大変難しくなると考えられます。また想定以上の津波規模を考えた場合、どの地域まで下校させられるか、更に判断は難しくなります。こうしたことから、地区別集会を行うことや、「引き渡し訓練」を行うことが重要となります。このほか、生徒の居住地や幼・小・中の兄弟関係の把握なども必要となります。「引き渡し訓練」を行う際には、このような状況であることを理解していただき、ご参加いただきたいと思います。

東日本大震災の教は大変大きなものです。「リアス式海岸以外の地域(石巻・仙台・名取・福島)で大津波は来ない」とする言い伝えは、見事に覆さています。東日本大震災も複数の震源地で連動した巨大地震だったからです。様々なケースを想定し、安心安全のため、各ご家庭で話し合いを行っていきましょう。

